

業科目：	日常生活援助方法論Ⅱ		
科目区分：	看護学科 専門領域特有の科目	受講者数：	1年生 64名 (2018年度)
担当者：	青井 聡美 (保健福祉学部看護学科)		
アクティブ・ラーニングのタイプ：	行動型 ・ 参加型 ・ 複合型 (※行動型・参加型ALを組み合わせ実施)		
キーワード (具体的なAL手法等)：	グループワーク, ディスカッション, プレゼンテーション		

1. 授業の概要と目標

本科目では、看護の対象を理解し、適切な看護ケアを実践するための基礎的な看護の方法を学ぶ。ここでは、健康な人間にとっての日常生活行動の意味を看護の視点から理解し、日常生活行動に関する援助技術が科学的根拠を理解した上で実践できるように学修する。

- ①日常生活を助ける看護技術に関する安全・安楽・自立の原則を述べることができる。
- ②日常生活を支援する看護技術を、対象に提供するための具体的方法を考えることができる。
- ③日常生活を支援する看護技術の基本的な手技を説明、かつ実施できる。
- ④日常生活援助を必要とする対象への援助を通して、対象に必要な配慮を考え、看護職としての基本的姿勢を身に付けることができる。演習では、学生間において看護師役と患者役を体験しながら、援助を受ける患者の気持ちを理解するとともに、援助技術の基礎的な行動が形成されることを目的に学修する。

2. アクティブ・ラーニング導入の具体的な流れ

○科目名 日常生活援助方法論Ⅱ 第13回 ポジショニング 口腔ケア

段階	指導過程・学修活動		指導上の留意点(工夫)	評価方法
導入	講義: ポジショニング(20分) 演習目的・方法の説明(3分) ファーラー位でのポジショニング及びクッションの使用方法についての説明(5分) 義歯の装着(3分)		事前課題 ①体位の定義と特徴 ②同一体位を長時間とること でどの部位が苦痛を感じる のか図示する ③口腔ケアの手順書を完成 させる	
演習	1ベッド学生配置人数: 3~4人 演習方法: ABグループに分かれ演習する。 Aグループ: 【前半】ポジショニング(仰臥位・側臥位) 【後半】口腔ケア/義歯装着 Bグループ: 【前半】口腔ケア/義歯装着 【後半】ポジショニング(仰臥位・側臥位)		学生の演習状況を確認し、クッションを挿入する時の観察点や根拠を説明する。 口腔ケアにおいても、同様に科学的根拠に基づいたケアを実践できるように助言する。	
展開		Aグループ	Bグループ	
	前半	ポジショニング演習 <仰臥位>(35分) ①事前課題②についてグループで話し合う。 ②苦痛を感じた部分を考慮しながら体圧がどこにかかっているかマルチグローブを使用し観察を行う。クッションを使用し、ポジショニングを行い、安楽な体位に整える。 ③クッションをどこにどのように使用したか、ポジショニング後の変化と安楽な体位をとる上で工夫した点についてまとめる。 ④③でまとめた内容をグループ内で意見交換する。 <側臥位>(35分) 上記①~④を実施する。	口腔ケア演習 ・看護師役・患者役・観察者役となり実施する。 ・患者役の学生は、臥床する前に歯を染色剤で染めておく ・グループ全員が終了した後、義歯モデルを使用し、総義歯の外し方とはめ方を行う。	

	後半	口腔ケア演習	ポジショニング演習	
まとめ	本時の演習の振り返り シャトルカード 自己学修ノート(演習での学びと課題)		本時の学修全体を振り返らせる。本時の学びを学修ノートの「演習での学びと課題」に記載させる。	自己学修ノート提出時に評価

3. 成果・効果

授業後の学びと感想によると、「どのような姿勢が安楽かは個人差がある。バランスを見ながら見ていくことが必要である」「実際にベッドに寝てみて、圧がかかる部位が良く分かったし、クッションを入れることで圧が軽くなっていくのを体験できた」「3人で意見を出し合うことでたくさんのアイデアがでてきた」などの記述があった。患者個々に合わせた援助が必要であり、クッションを入れるだけでなく、その後の観察が大切であるということに気づき、学びが深まっていた様子が見られた。

授業参観したFDerのコメントからも、グループで話し合いながらよりよい方法を考えている。技術のポイントをメモしている。教員の発問やコメントに対して学生同士で共有し深めているという点がみられた。

4. 課題

一方で、学生の中には、ポジショニングの事前課題が不十分な学生がいた。そのため、演習前のディスカッションが十分できていないグループがみられた。次年度へ向け、事前課題についての説明と自己学修ノートの記載方法についてのオリエンテーションを強化しさらに工夫を重ねたい。